
忍玉乱太郎

Taetae

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忍玉乱太郎

【Nコード】

N62030

【作者名】

T a e t a e

【あらすじ】

忍者の卵・忍玉の乱太郎、きり丸、しんべいの3人は真夜中の遠足の途中で光るものを見つける。
果たして 光るものの正体は何か。
『忍玉乱太郎』の番外編。初公開。

（前書き）

乱太郎、きり丸、しんべいは、失敗ばかりして先生の説教を受けるのがお約束です。

この3人はズッコケ3人組に似ていると思います。

忍術学園1年は組の生徒たちは、元気で無邪気な性格だ。特に乱太郎 きり丸 しんべいはいつも個性豊かな仲良し3人組だ。

その生徒たちは、これから近くの山に遠足に行くことになった。遠足といっても、お弁当や御菓子は絶対に所持するものではない。もし持っていたならば、山田先生や組の担任の土井先生にこつてりと油を絞られるのが、当然目に見えているのだ。それから、夜中に行くものと決まっているのだった。

1年は組の生徒は、学園前に集まったものの、乱太郎は、頭に頭巾ではなく予備の袴を被っているのだった、おまけにしんべいはなぜか布団をしょっているのだった。更にきりまるは小銭袋を腰に身につけているのだった。

「こらこら、その3人、ちゃんと身なりを整えなさい。特に乱太郎。」

と山田先生に怒られるのは、3人のお約束の一つだった。

しんべいはしょってた布団を、きり丸は持ってた小銭を山田先生に没収されるのであった。

乱太郎はあらかじめ持っていた頭巾を被る。

集合したは組は、山田先生と土井先生の前に立つ。

「えーこれから、我々は近くの山に遠足に行くのであるから、みんなは私と土井先生の指示に従うように。」

「はい。」

こうして、1年は組の遠足が始まるのであった。

山の中に入った1年は組は、歩きながら仲良く御喋りするのであった。

「ねえねえ、きり丸、乱太郎アレ何？」

しんべいは小声で2人にささやいた。

しんべいの指差す方向には、なにやらキラキラと光っている。

「きつと、お宝があるに違いない。2人ともいつてみようぜ。」
嬉しそうな顔でしんべいが指差した方向へ向かうきり丸。

「また、きりちゃんのドケチが始まったよ。」

きり丸にあきれつつ後を追う乱太郎。

「あーん、待ってよ。」

しんべいも後を追う。

3人がキラキラ光っている方を目印に奥に入っていく。ようやくキラキラした場所に辿り付く3人。よく見ると泉が満月の光に照らされて光っているのである。そう今夜は、満月が出る夜であった。

「なんだ、宝じゃなかったのか。」

「きり丸そればっか。」

呆れ顔で突っ込むしんべい。

3人は笑い始める。

「しっ、何か物音がする。」

3人の背後から、がさがたと音がする。

「山賊かな。」

「多分な。」

「よし、3人で一気にとっちめるぞ。」

木の後に隠れる3人は泉のそばにあったまるたん棒を構える。

泉の傍に來た怪しい人影は立ち止まる。

「今だ！」

「オリヤー！」

乱太郎の合図で3人は一斉に人影をまるたん棒で殴り始める。やがて、人影は地面に倒れるのだった。

「やったー！僕たちの勝利だー！」

「バンザーイ！」

ところが、人影は立ち上がった。人影は、”乱太郎、きり丸、しんべい”と叫びた。

3人が恐る恐る見ると、なんと乱太郎達のクラスの担任の土井先

生が三白眼で乱太郎一行を睨みつけていた。土井先生はいなくなつた彼らを探しに来たのだった。

「なゝんてことするんだゝ、馬鹿者がゝ！罰として、10日間の便所掃除だゝ！」

「ごめんなさゝい！」

土井先生と乱太郎一行の声は山中に響きわたったのである。

（後書き）

全く元気すぎて、困った3人組だけど、そこが彼らの個性です。
あんな珍しいものを見れば、私も迷子になってしまいます。
好奇心も個性の1つです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6203o/>

忍玉乱太郎

2011年10月6日20時29分発行